

令和3年度 足利中央特別支援学校 学校評価シート

教育目標、目指す児童生徒像、教師像、学校像

教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行うことにより、その能力や可能性を最大限に伸ばし、地域社会の中で主体的に生きる力を育成する。
目指す児童生徒像	○目標に向かって意欲的、主体的に取り組める児童生徒 ○自分の良さ、相手の良さに気づき、認められる児童生徒
目指す教師像	1 常に「児童生徒のために」という意識をもてる教師 2 「授業をつくる力」の向上に努力し続ける教師 3 相手の心情に寄り添った対応を大切にできる教師 4 児童生徒・保護者・地域社会から信頼される教師
目指す学校像	1 安心・安全な学校 2 児童生徒が意欲的に学べる学校 3 地域社会に開かれた学校 4 教職員がやりがいを感じられる学校

令和3年度努力点

評価基準

A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50～80%) C:あまり達成できていない(20～50%) D:達成できていない(20%以下)

重点目標	推進担当	達成目標（評価項目）	評価の観点	評価	改善策	学校評議員評価
1 安全指導及び防災体制の充実を図るとともに、健康・安全教育、防災教育を推進する。 ○教職員一人一人の安全に対する意識・感性を高め、日常生活指導及び各種訓練や安全学習・安全指導の充実を図るとともに、児童生徒が自らの安全・健康を守るために必要な判断や行動ができるようにする。	健康指導部 児童生徒指導部 学校安全対策委員会	・安全・防災指導の充実を図るため、教職員の学校安全、健康安全、防災安全に対する意識を高め、学校管理下における児童生徒の事故を未然に防止する。	・小グループによるケーススタディ等を活用し、児童生徒の障害の状況に対応した安全対策を講じることができたか。 ・安全対策が効果的に機能し、児童生徒の事故・怪我の発生件数の減少につながったか。	B	・Teamsを活用し、ヒヤリハット事例やリスクマネジメント情報を全職員で共有することで、組織の危機管理意識を高めることができた。 ・知覚障害のある児童生徒は、被害者となるケースが少なくないため、学校においても、自身の身を守るための学習を適切に行う必要がある。 ・適切な対応方法に関する共通理解を図っていく。	・組織内で、リスクマネジメントに関する情報共有を行うシステムが構築されている。 ・知的障害のある児童生徒は、被害者となるケースが少なくないため、学校においても、自身の身を守るための学習を適切に行う必要がある。
2 児童生徒の自立・社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。 ○各学部段階及び児童生徒の実態に応じた「人と関わる力」の向上を目指した指導の重点及び指導方法の定着を図る。	キャリア教育推進委員会 進路指導部 学習指導部 各学部	・「挨拶」や「場に応じた言動」に関する指導場면을積極的に設け、人間関係形成能力の更なる向上を図る。	・挨拶運動週間等の実践により、多くの児童生徒に、学校生活の様々な場面で積極的に挨拶を行う等の変容が見られたか。 ・「人と関わる力」の向上を目指した本校の取組について、懇談や各種便り等を活用し、保護者にわかりやすく伝えることができたか。	A	・挨拶運動週間の実施により、高等部生徒が他学部の昇降口で挨拶を行うなど、学部を超えた関わりが見られた。引き続き児童生徒相互の関わりを深めるため挨拶運動を継続していく。また、家庭と学校との連携による学習効果の向上を目指して、各種便りやホームページ等で学習内容に関する情報発信を積極的に行っていく。	・学校をあげて挨拶運動に取り組み、良い成果が出ている。 ・卒後支援について、障害者相談支援センターや障害者就業・生活支援センターと学校が必要に応じて連携し、情報を共有していけると良い。
3 地域と連携した学校作りを推進する。 ○開かれた教育課程の実現に向けて、学校からの情報発信の定着と、地域の教育資源を活かした取組の充実を図り、障害のある児童生徒に対する地域の人々の理解を深められるようにする。	教務部 特別活動部 地域支援部 各学部	・学校ホームページのコンセプト設計(何を、誰に、どう伝えたいのか)を明確にすると共に、閲覧者が目的を達成しやすい情報設計(ページやコンテンツの整理、配置)を行う。	・掲載記事の内容を学校の教育活動全般に拡大すると共に、画像等を効果的に取り入れ、閲覧者が直感的に理解しやすい学校ホームページを構築できたか。	A	・ホームページの項目が整理され、効率的な情報検索が可能になった。今後は、一斉メールとホームページを連動させ、保護者通知や配布物をデータ化するなど情報伝達の更なる効率化を図っていく。	・早期教育相談やボランティア講座は、市や参加者から高い評価を得ている。 ・ボランティア講座は土曜日開催のため、働き方改革とのバランスを考えながら更なる充実を図って欲しい。
	渉外部 地域連携係	・地域の教育資源を活かした地域連携授業の実践等により、地域と学校の連携強化を図る。	・地域連携に関する取組状況を、学校ホームページや便り、校内掲示等で積極的に発信することができたか。 ・事後アンケートにより明らかになった成果や課題を地域・学校間で共有し、次年度に向けた改善策を検討できたか。	B	・地域連携授業の様子をホームページや校内掲示等で発信することができた。 ・事後アンケートでは、建設的な記述が多く見られ、参加者の多くが満足度の高い取組であった。次年度も、地域連携授業やボランティアの活動内容を具体的に伝え、児童生徒との関わりを深められるよう計画を立てていく。	・一斉メールの活用により、ボランティア関係の情報伝達を効率的に行うことができた。 ・学校ホームページの内容がこまめに更新されており、いつでもどこでも閲覧できる。引き続き取り組んで欲しい。 ・教育活動に地域の方を積極的に引き入れて学校を盛り上げて欲しい。(教材作りや作業学習を含む)
4 教職員一人一人の専門性及び授業力の向上に向けた取組を推進する。 ○「主体的・対話的で深い学び」の在り方を意識し、「児童生徒が自ら学ぼうとする授業」をつくり出す力の向上に継続して取り組む。	教務部 学習指導部 各学部	・学校全体で取り組む授業研究をとおして「主体的な学び」を引き出す視点を身に付ける。 ・自立活動シートの作成や個別の指導計画の活用をとおして「児童生徒が自ら学ぼうとする授業」を作り出す力の向上を図る。	・「主体的な学び」に関する校内研修を実施し、グループ内での授業立案につなげることができたか。 ・主体的な活動場面を設定した一人1回の公開授業または研究授業を行い、指導の効果を考察することができたか。 ・自立活動シートの活用方法に関する理解を深め、適切な実態把握や目標設定に基づいて、学習内容の工夫や教材作りを行うことができたか。	A	・県教育委員会指導主事を講師として「主体的な学び」に関する全体研修を行った。小グループによる協議やPDCAサイクルに基づいた授業研究をとおして、「主体的・対話的な学び」や「個に応じた指導」に関する理解を深めた。 ・授業研究会における協議のポイントを全体研修で学んだ2点に焦点化することで、児童生徒の実態や指導方法について議論を深めることができた。今後は、各単元終了時の振り返りポイントを明確にし、指導グループによる話し合いを充実させることで学校全体の指導力向上を図っていく。 ・指導グループを編成し、自立活動シートを活用した実態把握や目標設定を行った。シートの活用により、児童生徒の興味関心に応じた指導の手立が明確になり、指導者間で共通理解を図ることもつながった。今後は「小・中学部用」「高等部用」「重複障害学級用」の3種類のシートを整備し、自立活動の指導に関する理解を深めると共に、他教科との連携についても検討を進めていく。	・授業に使用する教材がよくできており、先生方が児童生徒一人一人の障害の状態に応じて、丁寧に指導していることがよくわかる。 ・コロナ禍でも自己研究に前向きに取り組んでいる。自立活動シートの活用については、特別支援学級を対象に研修をいただきたい。